

科目名	人間科学特講	担当者	タナカ ケンイチロウ 田中 堅 一 郎	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	これから人間科学を学び、人間科学の諸領域の研究を行う際に必要なリテラシーを理解してもらうことを目的とする。人間科学の研究を行う上で欠かせない研究倫理、文献検索の方法について理解し、各コースの研究領域で研究実施の際に知っていなければならないことがらについて特別研究指導を担当する教員が説明する。人間科学で研究する上で「常識」とされる基礎知識は了解していただきたい。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間科学の諸領域の研究を進めるためのリテラシーを身につける。 ・人間科学に関わる研究課題に取り組む人であれば「常識」とされる基礎知識は理解できる。 ・自分の研究領域において、どのように研究を進めればよいか分かる。 		
学修方法	2単位相当のスクーリングと2単位相当の在宅学習によるレポート作成を基本にして単位修得となる。レポート課題に沿って、テキストや参考図書をもとに、自分で各々の課題における題材を取り上げ、その題材に対して必要な文献の検索を行い、それに対する考え方をレポートとしてまとめる。レポート作成の際の注意点や留意点については、Manaba Folioのスレッドに掲示する。		
スケジュール	<p>この講義は、人間科学専攻において研究を進める上で欠かせない内容であり、初年度教育に相当するので、スケジュールの調整がつかざり、初年度に履修すること。</p> <p><通信授業（在宅学習）2単位分：基本教材1> 前期：できるかぎりスクーリング前までに基本教材1および参考文献を通読し、スクーリングに備える。基本教材1についてレポート課題を作成し、9月20日までに最終稿を提出する。</p> <p><スクーリング 2単位分> 夏期(7月15日～17日) 冬期(11月17日～19日) 修士課程在学期間内に夏期あるいは冬期、いずれかのスクーリングに必ず1回、原則として全日程出席すること。夏期・冬期は基本的に同じ講義内容で構成される。</p> <p>①人間科学における研究とは（論文の構成を含む）、研究倫理、文献検索の方法、引用・参考文献の示し方、等</p> <p>②人間科学各専攻の講義：哲学研究の方法、心理学研究の方法、教育学研究の方法、健康科学研究の方法、安全学研究の方法、スポーツ科学研究の方法。</p> <p>1) スクーリング・レポート課題1：スクーリング1週間後（初稿のみ） 2) スクーリング・レポート課題2：スクーリング終了の1か月後（初稿のみ）</p> <p>※最終稿は、平成30年1月15日までに提出すること。</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	通信授業 (在学学習)	50%	最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、(原則的に)ゼロ点となります。 草稿を一度も出さず、いきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は69点以下しか得られません。
	スクーリング	50%	レポートの内容（論旨、構成、独創性） 課題1：10%、課題2：30% 参加度（討論、発表）10%
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成にあたっては、教材の引き写しは評価の対象外とします。 ・いずれのレポート課題についても、本文に引用した文献名は、かならず文末の文献リストに掲示してください。その際、本文に引用した文献（引用文献）と、本文には引用しなかったがレポート作成に際して参考にした文献（参考文献）とは仕分けて示してください。 ・レポート課題については、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います。レポート課題といえども、論文の体裁で書いて下さい。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一(編著) 教材名： 『人間科学研究法ハンドブック (第2版)』(ナカニシヤ出版, 2011年) ISBN:978-4-77-950419-8 2,800円+税</p> <p>心理学を中心とした人間科学の研究法について、様々な視点から解説されている。章立ては以下の通り：第1章(研究とは何か)、第2章(データの収集)、第3章(研究の設計と管理)、第4章(人間科学における研究倫理について)、第5章(文献調査の方法)、第6章(メッセージ分析)、第7章(観察法)、第8章(調査的面接法)、第9章(フィールド研究におけるインタビュー)、第10章(質問紙調査法)、第11章(実験法)、第12章(研究論文の書き方1)、第13章(研究論文の書き方2)</p>
参考図書	<p>新堀 聰『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』(同文館出版, 2002年) ISBN 978-4-4958-6511-5 1,400円+税 杉本敏夫『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』(サイエンス社, 2005年) ISBN 978-4-78-191078-9 1,900円+税 トゥラビアン, K. 沼口隆・沼口好雄(訳)『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』(慶應義塾大学出版会, 2012年) ISBN 978-4766419771 8,000円+税 山崎茂明『科学者の発表倫理 不正のない論文発表を考える』(丸善, 2013年) ISBN 978-4-621-08654-4 2,600円+税</p>
履修上のポイント	<p>参考図書などをもとに、馴染みのない専門用語を確認することが望ましい。 夏期および冬期のスクーリングの講義では、基本教材1についての話題を中心とする予定である。</p>
レポート課題1	<p>基本教材1のうち、第1章、第2章、第4章、第5章、第7章から第11章を要約し、レポートの最後に全体についてのコメントを述べること。 留意点：各章を、800字程度を目安に要約し、全体についてのコメントを付記すること(合計7,000字~8,000字程度を目安にすること)。教材の引き写しは評価の対象外とする。</p>
レポート課題2	<p>基本教材1のうち、第1章、第2章、第4章、第5章、第7章から第11章の中から1つの章を選び、その章の内容を自分の興味・関心の高いことを中心に、3,000字~4,000字でまとめること。 留意点：参考図書もレポート作成の必要に応じて引用すること。自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： スクーリングで提示された推薦図書 教材名：</p>
参考図書	<p>新堀 聰『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』(同文館出版, 2002年) ISBN 978-4-4958-6511-5 1,400円+税 杉本敏夫『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』(サイエンス社, 2005年) ISBN 978-4-78-191078-9 1,900円+税 トゥラビアン, K. 沼口隆・沼口好雄(訳)『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』(慶應義塾大学出版会, 2012年) ISBN 978-4766419771 8,000円+税 山崎茂明『科学者の発表倫理 不正のない論文発表を考える』(丸善, 2013年) ISBN 978-4-621-08654-4 2,600円+税</p>
履修上のポイント	<p>スクーリングの講義で分からなかった専門用語を参考書で確認することが望ましい。</p>
レポート課題1	<p>スクーリングの専攻別講義の概要を要約し、それについて意見をまとめる。特定の講義を取り上げても構わないが、その場合は先に講義担当教員のレビューを受けること。(1,000字~1,500字)</p>
レポート課題2	<p>夏期：各分野の研究手法の講義や参考図書(2)、スクーリングでの発表と討論を踏まえて、<u>研究計画書</u>をまとめ、指導教員のレビューを受けた上で提出する。(3,000字~4,000字) 冬期：各分野の研究手法の講義や参考図書(2)、スクーリングでの発表と討論を踏まえて、<u>研究経過報告書</u>をまとめ、指導教員のレビューを受けた上で提出する。(3,000字~4,000字)</p>